

SEKONIC

ズームマスター L-508

使用説明書

株式会社 セコニック

本社 〒178-8686 東京都練馬区大泉学園町7-24-14 ☎ 03-3978-2366

写真機材グループ : 〒178-8686 東京都練馬区大泉学園町7-24-14

☎ 03-3978-2366 FAX 03-3922-2144

保証書付

お買いあげありがとうございます。

この使用説明書をよくお読みになり、安全に正しくお使いください。

この使用説明書には、保証書が添付されておりますのでお読みになった後も、大切に保存してください。

■ 正しく安全にお使いいただくために

ご使用になる前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

⚠ 警告 このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合、製品の使用者等が死亡または、重傷を負う可能性があることを示す警告マークです。

⚠ 注意 このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合、製品の使用者等が軽傷または、中程度の傷害を負う可能性がある状況、または物的損害が予想される危険状況を示す注意マークです。

ご注意 操作をする上での注意や制限です。
誤った操作をしないために、必ずお読み下さい。

ご参考 操作の参考になることや、関連した機能などについての情報です。
お読みになることをおすすめします。

⚠ 警告

- 乳幼児等が誤ってストラップを首に巻くことのないように手の届かない場所に置いてください。
窒息の危険があります。
- 電池を火の中に入れてたり、ショート、分解、加熱は絶対しないでください。電池が破裂し火災、ケガや周囲を汚染する原因となります。

⚠ 注意

- 目に傷害を及ぼす恐れがありますので、ファインダーを通して太陽を直接覗かないでください。
- 雨中、水しぶきがかかる場所や水気のあるところ、濡れた手で扱う等の場合は感電の危険がありますのでシンクロナミナルキャップを外さずに「フラッシュ光コードレスモード」での測定をお勧めします。

正しく安全にお使いいただくために

目次

1. 各部の名称	1
2. 液晶表示部の説明	2~3
3. ご使用前に	4~6
1. ストラップの付け方	4
2. 電池の入れ方	4
3. 電池容量の確認	5
4. 測定中やメモリー機能使用中の電池交換	5
5. 自動電源OFF機能	6
6. フィルムISO感度の設定	6
7. 第2フィルムISO感度の設定	6
4. 基本操作	7~11
1. 受光方式の設定	7
2. 測定モードの設定	8
3. ディップスイッチの設定	9
4. 入射光式で測定する場合	10
5. 反射光式で測定する場合	11
5. 測定	12~25
1. 定常光の測定	12
1-1 シャッター速度優先モードの測定	12
1-2 絞り優先モードの測定	14
1-3 EVモードの測定	15
1-4 シネカメラ撮影の測定	16
2. フラッシュ光の測定	18
2-1 フラッシュ光コード接続モードの測定	18
2-2 フラッシュ光コードレスモードの測定	21
2-3 フラッシュ光コード接続積算(マルチ)モードの測定	22
2-4 フラッシュ光コードレス積算(マルチ)モードの測定	24

6. 機能.....	26~32
1. メモリー機能.....	26
2. アベレージ機能.....	27
3. モニター機能.....	28
4. 簡易照度計としての使い方.....	30
5. 簡易輝度計としての使い方.....	31
6. 指示補正機能の使い方.....	32
7. 入射光式と反射光式の違い.....	33~34
8. アクセサリー.....	35
9. 仕様.....	36~37
10. 使用上のご注意.....	38
11. アフターサービスについて.....	39
保証規定.....	40
保証書.....	41

保証書

このたびは、セコニック露出計をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
 ございます。

この製品は弊社が心をこめ厳重な品質管理のもとに製造したものでございますが、万一保証期間内に故障が生じた場合には、本保証書を現品に添えてお買い上げの販売店または最寄りの弊社サービスセンターにご持参くだされば、無料にて修理・調整させていただきます。

(保証除外事項はP40保証規定に記載されております)

機種名	L-508	BNo.	
	L-508CINE		
お買い上げ日	年	月	日
保証期間 (お買い上げ日より1年間)	年	月	日
ご住所			
ご氏名			

株式会社 セコニック

本社 〒178-8686 東京都練馬区大泉学園町7-24-14 ☎ 03-3978-2366

お問い合わせ先

写真機材グループ : 〒178-8686 東京都練馬区大泉学園町7-24-14

☎ 03-3978-2366 FAX 03-3922-2144

販売店名

[保証規定]

1. 使用説明書にそった正常な使用状態で、万一、保証期間内に故障が生じた場合には、保証書を現品に添えてお買い上げの販売店または弊社サービスセンターにご持参ください。無料で修理・調整させていただきます。

2. 次のような場合には保証期間内でも保証の対象とはなりません。

- (1) 誤ったご使用またはお取り扱い上の不注意により生じた故障、または損傷など
- (2) 保管上の不備によるもの、および使用者の責に帰すと認められる故障、または損傷など
- (3) 弊社の指定する修理取扱所以外で行われた修理・改造・分解掃除などによる故障または損傷
- (4) 火災、地震、水害、公害、指定外の使用電池（電圧）およびその他の天災地変や落下、衝撃などによる故障または損傷
- (5) 保証書のご提示がない場合
- (6) 保証書にお買い上げ日、保証期間、販売店名などの記載の不備な場合あるいは字句を書換えられた場合
- (7) ご使用後の内・外表面のキズ、部品や付属品の紛失による修復交換
- (8) 各部点検、精密検査、分解掃除等を特別にご依頼された場合

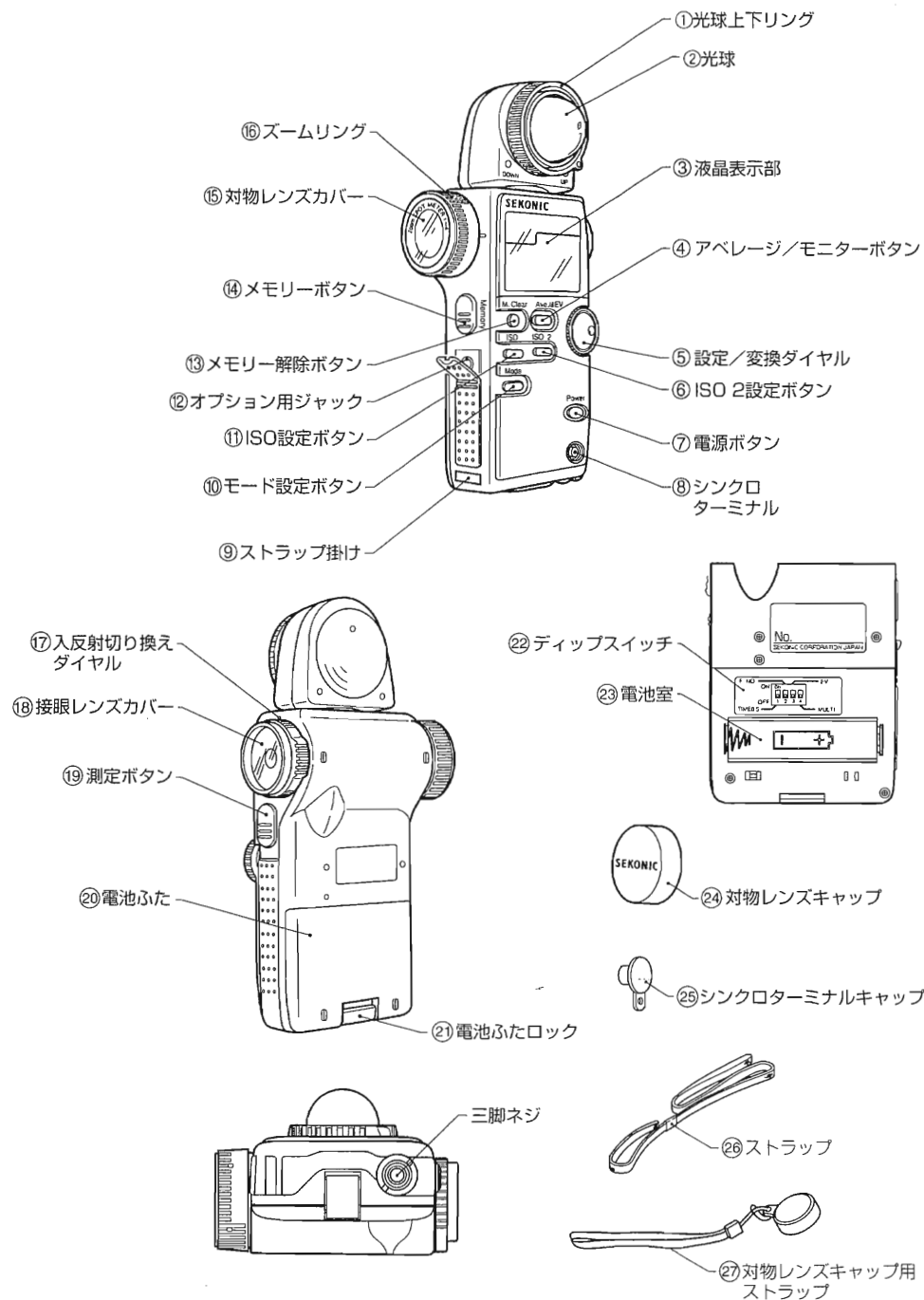
(9) 本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用および撮影により得べかりし利益の喪失など)

(10) お買い上げ店または、弊社サービスセンターにご持参いただくに際しての諸費用またはお買い上げ店と弊社間の運賃諸掛り

3. ご注意

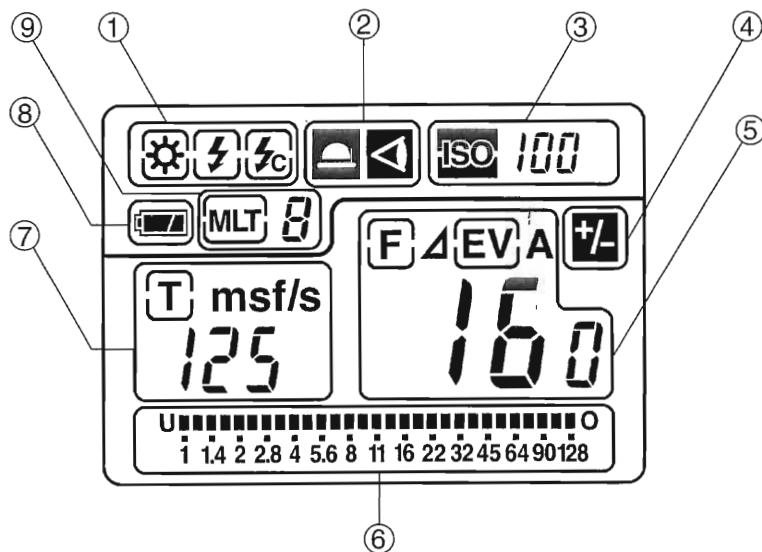
- (1) 本保証書は以上の保証規定により無料修理をお約束するものでこれによりお客様の権利を制限するものではありません。
- (2) 本保証書の表示について、ご不明な点は弊社サービスセンターにお問い合わせください。
- (3) 保証書をお受け取りの際は、販売店名および購入年月日などが記入されているかどうかをご確認ください。万一記入もれがありました場合には、ただちにお買い上げ店へお申し出ください。
- (4) 保証書の再発行はいたしませんので大切に保存してください。
- (5) 本保証書は日本国内においてのみ有効です。

1. 各部の名称



2. 液晶表示部の説明

※本表示は説明の為、実際とは異なります。



(L-508CINEは一部表示が違います。L-508CINE使用説明書をご参照願います。)

①測定モード表示部

- 定常光測定モード(P12参照)
- フラッシュ光コードレス測定モード(P21参照)
- フラッシュ光コード接続測定モード(P18参照)を表示します。

②受光方式表示部(P7参照)

- 入射光式測定の時、点灯します。
- 反射光式測定の時、点灯します。

③ISO表示/第2 ISO表示部(P6参照)

- ISO フィルムのISO感度を表示します。
- 第2 ISOボタンが押された時、点灯します。

④指示補正表示部(P32参照)

- 指示補正を設定した時、点灯します。

11. アフターサービスについて

* 弊社の製品には一定の期間内無料修理をお引き受けする保証書があります。記載事項をお確かめのうえ、大切に保管してください。

●無料保証期間などについて

1. 無料保証期間はお買い上げ日より1年間です。
2. 保証書にお買い上げ日および販売店名のないものは保証の対象になりませんので、必ずお確かめください。
3. 無料保証期間でも有料修理となる場合もありますので、保証書の記載事項をお確かめください。
4. 保証期間経過後の修理は有料となります。また、運賃諸掛りはお客様にご負担願います。

●補修用品の保有期間などについて

1. 補修用性能部品は、製造打ち切り後7年間を目安に保有しております。したがって、本期間を過ぎますと修理をお引き受けできないことがあります。
2. 修理完了品には、弊社の修理納品書が発行されますのでお確かめください。
3. 修理可能期間内でも浸冠水、強度のショックその他損傷のいちじるしいもので、修理後の機能維持に問題が残ると思われるものにつきましては、修理不可能となる場合があります。

●修理ご依頼にあたって

1. 修理品につきましては、故障内容を、またご指定の修理箇所がありません場合には、その指定箇所をできるだけ具体的にお申し出ください。ご指定のない場合には、各部点検をはじめ品質的、性能的に必要なと認められるすべてのところを検査・調整・修理することになり、修理料金が加算される場合がありますのでご留意ください。
2. 修理をご依頼されたものの中には単に電池を交換するだけで正常に作動する「故障していないもの」が見受けられます。電池の容量低下、(+)(-)の逆、定格違いなどについて、よくお確かめください。

●お問い合わせについて

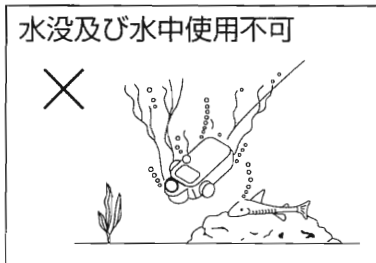
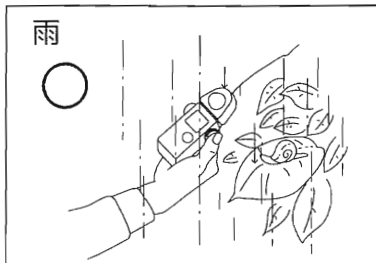
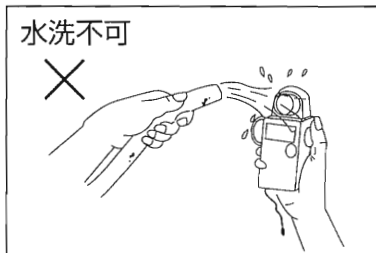
本製品の保証、修理、使い方などのお問い合わせは弊社営業部門またはサービスセンターにご相談ください。

万一、製造上の不備で生じた不都合につきましては現品をもって保証させていただき、それ以外の責は負いかねます。

10. 使用上のご注意

ご注意

- この露出計は日常の生活防水機能を持っていますが、(JIS規格保護等級4級 防まつ形)水に漬けたり、水中での使用はさけてください。故障の原因になります。



- 落下または急激な衝撃は絶対に避けてください。故障の原因になります。
- 高温または多湿な場所には保管しないでください。故障の原因になります。
- 急激な温度変化による湿気に注意してください。結露する場合があり故障や誤動作の原因になります。

お手入れについて

- 水しぶき等を浴びて水滴がついた場合はなるべく早く乾いた布で拭き取ってください。錆びたり腐食の原因となります。
- 電池ふたのゴムパッキンに強い力を加えたり、剥がしたりしないでください。浸水、腐食、故障の原因になります。
- ゴムパッキンやパッキンが当たる面に傷がついたときは、浸水、腐食、故障の原因になりますので、サービスステーションにご相談ください。
- 本機が汚れたときは、乾いた柔らかい布で拭いてください。有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)は、絶対に使用しないでください。

2. 液晶表示部の説明

⑤絞り値/モニター値/EV値/アベレージ値表示部

- F** 絞り優先測定の時、点灯します。(P14参照)
- ΔEV** モニター測定の時、点灯します。(P28参照)
- EV** EV測定の時、点灯します。(P15参照)
- A** アベレージ測定の時、点灯します。(P27参照)

⑥ドット表示部

最終測定値/メモリー値/モニター値/アベレージ値を0.5絞り単位のドットで表示します。

- u** 表示範囲外アンダーの時、点灯します。
- ∩** 測定範囲外アンダーの時、点灯します。
- o** 表示範囲外オーバーの時、点灯します。
- ∪** 測定範囲外オーバーの時、点灯します。(P13参照)

⑦シャッター速度/シネコマ数表示部

設定に応じ、シャッター速度又はシネコマ数を表示します。

- T** シャッター速度優先測定の時、点灯します。(P12参照)
- m** シャッター速度が分単位の時、点灯します。(P12参照)
- s** シャッター速度が秒単位の時、点灯します。(P12参照)
- f/s** シャッター速度がシネコマ数の時、点灯します。(P16参照)

⑧電池容量表示部(P5参照)

⑨積算マーク/メモリーマーク/回数表示部

- MLT** 9 積算モードにすると点灯します。(P22参照)
- M** 3 測定値をメモリーすると点灯します。(P26参照)

液晶バックライト

測定を行っている場所が暗いとき、測定後明るさを感知して自動的に液晶表示部が照明されます。尚、ミニ受光部、ブースター使用時については、測定後に周りの明るさに関係なく照明されます。

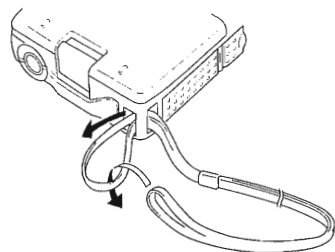
測定中、及び、フラッシュ光コードレス待機時は測定値に影響を及ぼす為、照明されません。

液晶の照明は各ボタンの操作後、約10秒(L-508CINEは約20秒)で自動的に消灯します。

3. ご使用前に

1. ストラップの付け方

- 1) ストラップ⑳をストラップ掛け㉑側面の穴から通します。
- 2) ストラップ㉑先端の輪の中にストラップ㉑の反対側を通してください。

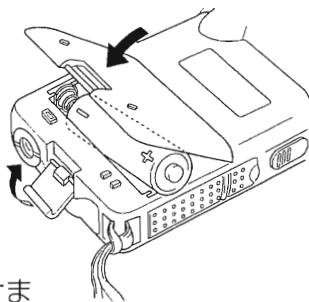


警告

●乳幼児等が誤ってストラップを首に巻くことのないように手の届かない場所に置いてください。窒息の危険があります。

2. 電池の入れ方

- 1) 単3形乾電池を1本用意します。
マンガン乾電池 (R6P)
アルカリ乾電池 (LR6)
リチウム乾電池 (FR6)
上記のいずれか1本を使用します。
- 2) 電池ふたロック㉒をはずし電池ふた㉓を開けます。
- 3) 電池室㉔の＋表示に合わせて入れてください。
- 4) 電池ふた㉓の爪を本体の穴に合わせて、矢印のように上から押しつけながら、電池ふたロック㉒をかけます。



ご注意

- ニッケル・カドミウム蓄電池 (NiCd)、ニッケル・水素蓄電池 (NiH) は使用できません。
- 電池接片の腐食及び防水機能の低下を防ぐため、電池ふたのゴムパッキンにゴミや砂が付着しないようにしてください。

9. 仕様

- その他の機能
- 生活防水機能 JIS規格 保護等級4級、防まつ(沫)形
 - メモリー機能 6回まで可能(入射光式で3点、反射光式で3点)
 - 積算機能 9回まで可能
 - アベレージ演算機能
 - モニター機能
 - 測定範囲外 E.u(アンダー) E.o(オーバー)警告表示
 - 露出補正機能 ±9.9EV
 - 電池容量表示機能
 - 自動電源OFF機能(最終操作後20分)
 - 液晶バックライト自動点灯
 - モード選択ディップスイッチ
 - 三脚用ネジ穴付
 - 視度補正レンズ装着可
(株式会社 ニコン製 F-801S, F801の接眼補助レンズ-5~3Dpまで9種が使用可能)
 - ISO 2フィルム感度設定可能
- 使用電池 ●単3形乾電池1本(マンガン、アルカリ、リチウム乾電池のいずれか)
- 使用温度範囲 ●-10℃~50℃
- 保管温度範囲 ●-20℃~60℃
- 寸法 ●約84(幅)×156(高さ)×40(厚さ)mm
- 質量 ●約210g(電池別)
- 標準付属品 ●ソフトケース、ストラップ、対物レンズキャップ、対物レンズキャップ用ストラップ、シンクロターミナルキャップ、単3形乾電池1本
- この使用説明書に記載の仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。

9. 仕様 (L-508CINE使用の場合は、L-508CINE使用説明書をご参照願います。)

形式	●一眼ズーム(1°~4°)内蔵フラッシュ光及び定常光用デジタル露出計
受光方式	●入射光式及び反射光式
受光部	●入射光式 光球 ↔ 平板機能(光球を上下させ、平板機能も兼用) ●反射光式 一眼ズーム(受光角1°~4°) 測定距離1m~∞ ●外部受光式 ブースター、ミニ受光部(別売)
ファインダー	●倍率 1.2~0.3(受光角1°~4°) ●視野角 8.5°~31°(受光角1°~4°)
受光素子	●シリコンフォトダイオード
測定方式	●定常光 絞り優先測定 シャッター速度優先測定 EV測定 ●フラッシュ光 シンクロコードを用いて測定(積算あり、なし) シンクロコード無しで測定(積算あり、なし)
測定範囲 (ISO100)	●定常光 入射光式 EV-2~EV19.9(0.1ステップ) 反射光式 EV3~EV19.9(0.1ステップ) ●フラッシュ光 入射光式 F1.0~F128+0.9絞り(0.1ステップ) 反射光式 F5.6~F128+0.9絞り(0.1ステップ)
繰返し精度	●±0.1EV以内
校正定数	●入射光式 光球 C=340 平板 C=250 ●反射光式 K=12.5
表示範囲	●フィルム感度 ISO 3~8000(1/3ステップ) ●シャッター速度 定常光 30分~1/8000秒(1又は0.5ステップ) 他...1/200,1/400秒 設定可能 シネコマ数(f/s) 2、3、4、6、8、12、16、18、 24、25、30、32、36、40、48、60、64、72、 96、120、128、150、200、240、256、300、 360(開角度180°) ; フラッシュ光 1秒~1/10000秒(1又は0.5ステップ)他...1/75、 1/80、1/90、1/100、1/200、1/400秒 設定可能
	●絞り値 F1.0~F128+0.9絞り(0.1ステップ)
	●EV値 EV-9.9~EV36.1(0.1ステップ)
	●ドット表示 F No. スケール F1.0~F128(0.5ステップ)
	●モニター表示 EV-9.9~EV9.9(0.1ステップ)
	●積算回数 0~9回
	●補正表示 EV-9.9~EV9.9(0.1ステップ)

3. ご使用前に

ご注意

- 電池の液漏れ等で本機に影響を与えることがありますので、長期間ご使用にならない時は電池をとりだして保管してください。
- 液晶が表示されない場合は、電池容量が充分あるか電池が+-逆に挿入されていないかを確認してください。

3. 電池容量の確認 (L-508CINE使用の場合は、L-508CINE使用説明書をご参照願います。)

- 1) 電源ボタン⑦をONすると液晶表示部に電池容量を示すマークが表示されます。



(点灯) 電池容量は十分です。



(点灯) 予備の電池を用意してください。



(点滅) 直ちに電池を交換してください。

ご参考

- 本機は連続測光した場合、電池寿命は常温で下記のようになっています。
マンガン電池 約10時間
アルカリ電池 約20時間
リチウム電池 約35時間 (当社試験条件)
予備の電池は常に用意されることをお勧めします。

4. 測定中やメモリー機能使用中の電池交換

- 1) 必ず電源を「OFF」してから電池交換を行ってください。電源「ON」のまま電池を取り出しますと、メモリーされている測定値や設定値を呼び出すことができなくなります。
- 2) 電池交換後又は測定中液晶表示部に異常な表示(設定していない表示等)、又は操作ボタンを押しても動作しないときなどは、電池を一度取り出し10秒以上経過してから入れ直してください。この現象はソフト回路上、発生する場合があります、故障ではありません。



警告

- 電池を火の中に入れてたり、ショート、分解、加熱は絶対しないでください。電池が破裂し火災、ケガや周囲を汚染する原因となります。

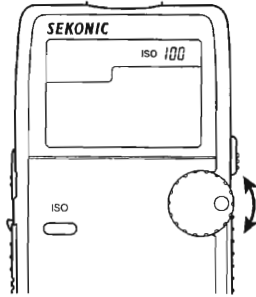
3. ご使用前に

5. 自動電源OFF機能

- 1) 省電設計のため使用後（最後にいずれかのボタンを操作した後）約20分で自動的にすべての表示が消え電源はOFFとなります。
- 2) 自動電源OFF機能が働いた場合と、電源ボタン⑦をOFFした場合のいずれでも設定値、測定値は記憶されており、電源ボタン⑦をONすることで再表示されます。

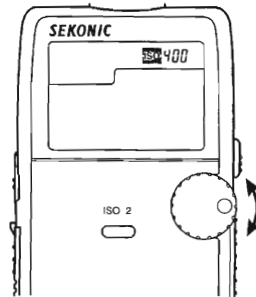
6. フィルムISO感度の設定

- 1) ISO設定ボタン⑪を押しながら設定/変換ダイヤル⑤を回して、使用するフィルムのISO感度を設定します。
- 2) フィルムのISO感度の変更は、測定後でも行えます。測定後にフィルムのISO感度を変えると新たに換算された測定値を表示します。



7. 第2フィルムISO感度の設定

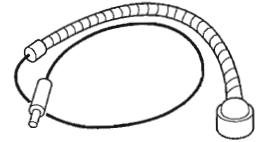
- 1) 異なったISO感度のフィルムを使用する場合や露出補正（フィルター使用時、接写等）をする場合に使用します。
- 2) ISO 2設定ボタン⑥を押しながら設定/変換ダイヤル⑤を回して、フィルムのISO感度を設定します。
- 3) この設定をしておくこと、測定後にISO 2設定ボタン⑥を押している間、設定されている第2フィルム感度の測定値を表示します。
- 4) 第2フィルムのISO感度の変更は6の2項と同様に可能です。



8. アクセサリー

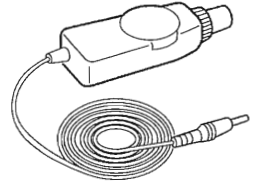
●ミニ受光部（別売品）

直径12mmの小さな受光面積を持つ入射光式受光部で、コードが自在に動きかつ固定できるため、細部の明るさが測定できます。小物撮影や接写などの場合に有効です。



●ブースター（別売品）

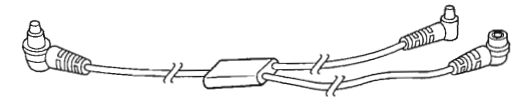
大型カメラのピントガラス面の測定や35mmカメラのフィルム面での測定、顕微鏡撮影の測定に使用します。また、付属品のアタッチメントを付けずに使用すると受光角約60°の反射光式測定ができます。



●シンクロコード（別売品）

長さ5mのコードは3つのプラグを持ち、露出計、フラッシュとカメラを接続同調させることができますので、撮影する時にもコードを差し換える必要がなく便利です。

又、シンクロコードの一方の接続端子は、ロック機構がついておりますので露出計側に使用すると確実に接続することができます。



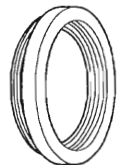
●標準反射板（別売品）

18%の反射率を持つグレーカード(110×102mm)で、反射率の高い(白い物)、低い(黒い物)被写体や著しく異なった反射率をもつ被写体を測定する場合、その影響を受けないようにするため被写体の平均反射率を18%とみなして露出量を決定するときに使用します。



●視度補正レンズ（株式会社ニコン 別売品）

株式会社ニコン製F-801S・F-801用接眼補助レンズ（-5～+3Dp9種）が使用可能です。



7. 入射光式と反射光式の違い

☆反射光式の特長

反射光式の測定方法は、基本的にはカメラ位置から被写体方向に向けて測定する方法です。

被写体に近づくことができない場合や入射光式では測定できないネオンサインやステンドグラス、花びらを透過してくるような光は、反射光式でなければ測れません。

大きな特長は、被写体から反射する光を測定して決める方法です。この為、被写体の反射率や明るさ、色等に応じた値を示します。すなわち白い被写体は高い値、暗い被写体は低い値を示します。指示値そのままの値で撮影すると測定した部分が、フィルム上で中間濃度、再現プリント上では灰色になります。つまり真っ白な被写体も、真っ黒な被写体も反射率18%グレーに写るような値を示しますので白い被写体の時は露出アンダーとなり反対に黒い被写体の時は露出オーバーとなりますので補正する必要があります。

特に本機のような狭い角度が測定できる機能をフィルムの再現域と考え合わせて利用すると、下記のように作画意図に沿った測定値を得ることができます。

1. アベレージ測光

画面内の明るさの異なる2~3箇所をスポット測光でメモリーし、アベレージ機能を使ってその平均値を求める方法で、一般的に風景やコントラストのある場合に有効です。

2. ハイライト基準測光

被写体のハイライト部分を白として再現するには、スポット測光で再現したい部分のみを測光、得られた指示値より2.3EV(一般的な値)低い値で露出を決定する方法です。例えば得られた値がF16+0.3絞りの場合はF8で露出決定します。

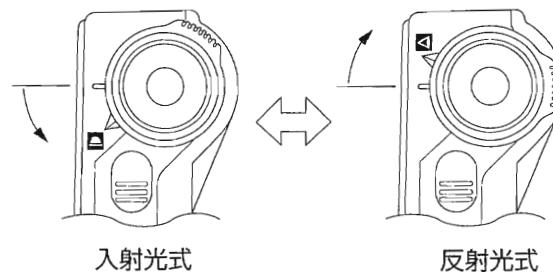
3. シャドー基準測光

被写体のシャドー部分を黒として再現するには、スポット測光で再現したい部分のみを測光し、得られた指示値より2.7EV(一般的な値)高い値で露出決定する方法です。

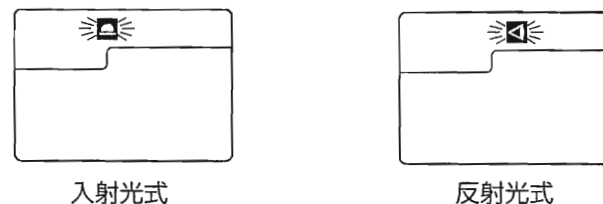
例えば得られた値がF5.6+0.3絞りの場合はF16で露出決定します。

1. 受光方式の設定

- 1) 入射光式と反射光式の切り換えは接眼部にある入反射切り換えダイヤル⑦をクリックする位置(☐、◀マーク)まで確実に回して、使用する受光方式に切り換えます。



- 2) 入射光式にすると☐マークが、反射光式にすると◀マークが、3秒間液晶表示部に点滅します。



ご注意

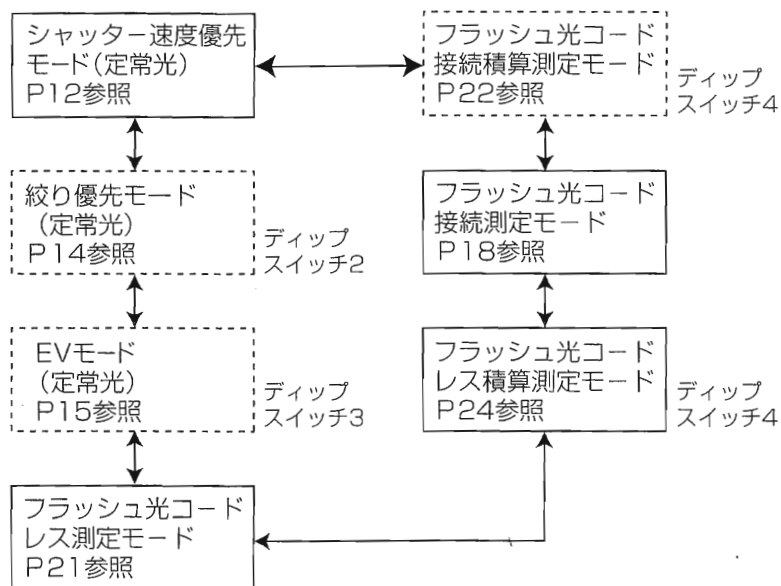
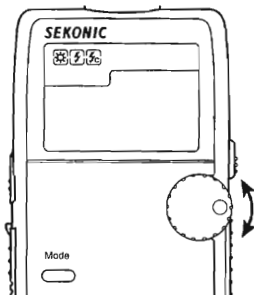
- 測定を行う前に必要な受光方式(☐、◀)になっていることを液晶表示部又は入反射切り換えダイヤルにて確認してください。

4. 基本操作

2. 測定モードの設定 (L-508CINE使用の場合は、L-508CINE使用説明書をご参照願います。)

- 1) モード設定ボタン⑩を押しながら、設定/変換ダイヤル⑤を回して使用するモードを選択します。測定モードは下図のような順序で測定モードが切り換わります。

入射光式、反射光式とも使用できます。



- 2) 上図で点線[]で囲まれたモードはディップスイッチ② (P9参照)で設定された場合のみ、選択できます。

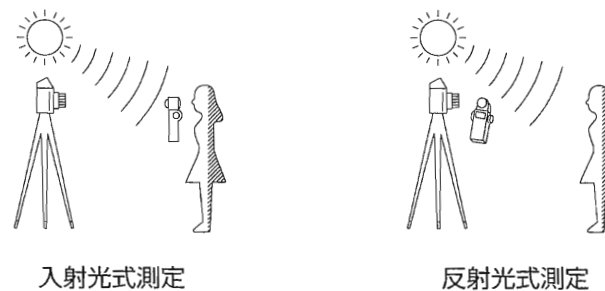
ご参考

- ・定常光とは、自然光(太陽光)かタングステン・蛍光灯のような連続光のことです。
- ・フラッシュ光とは、フラッシュ又はフラッシュバルブ(閃光電球)のような瞬間光のことです。

7. 入射光式と反射光式の違い

露出計には大きく分けて「被写体に当たる光の明るさ量(照度)」を測る入射光式露出計と「被写体に当たって反射した光の明るさ(輝度)」を測る反射光式露出計があります。

本機は入射光式と反射光式のどちらでも測定を行えます。切り換えは簡単なダイヤル回転操作だけで行えるため、目的に合わせて入射光式、反射光式を迅速に選択することができます。



☆入射光式の特長

入射光式の測定方法は、基本的に被写体位置で光球をカメラ方向(正しくはレンズの光軸方向)に向けて測定する方法です。

大きな特長は、被写体に入射する光を測って露出を決める方法で、被写体の反射率や背景の明るさに影響されることなく、標準的な露出値を求めることができます。逆光時のポートレートや、草花等の撮影に威力を発揮します。又、本機は簡単に平板機能に切り換えることが出来るため、スタジオ内でのライティングの設定もスピーディに行うことが可能になりました。

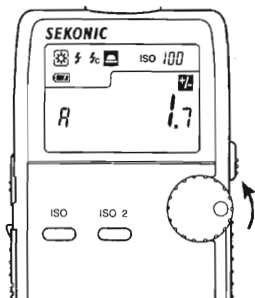
6. 機能

6. 指示値補正機能の使い方

本機は当社の基準により標準的な校正がされていますが、特に必要な場合は、±9.9EVの範囲で補正できます。

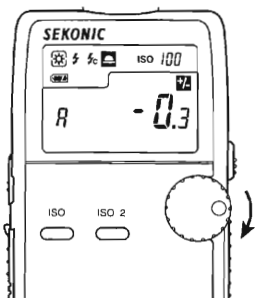
☆プラス補正の場合(指示値が大きくなる方向)

→撮影した時、露出アンダー側になります。
ISO設定ボタン⑪とISO 2設定ボタン⑥を押しながら、設定/変換ダイヤル⑤を反時計方向に回転すると、指示値が+0.1EV毎に+9.9EVまで補正できます。



☆マイナス補正の場合(指示値が小さくなる方向)

→撮影した時、露出オーバー側になります。
ISO設定ボタン⑪とISO 2設定ボタン⑥を押しながら、設定/変換ダイヤル⑤を時計方向に回転すると、指示値が-0.1EV毎に-9.9EVまで補正できます。



ご注意

- 補正する時は、十分なテスト撮影の結果をもとに、ご自分の好みに合わせて補正してください。
- 補正は、入射/反射、定常光/フラッシュ光、各測定を問わず一律に補正されますのでご注意ください。

ご参考

- 補正されている場合は、液晶表示部に **1/2** が常時表示されています。

4. 基本操作

3. ディップスイッチの設定 (L-508CINE使用の場合は、L-508CINE使用説明書をご参照願います。)

- 1) 本機の電池室内⑫には使用頻度の低いモードの設定スイッチを収納してあります。測定を始める前に選択したいモードを設定してください。
- 2) 設定の仕方は、選択したいモードのディップスイッチ⑬をONの方向にスライドさせます。

☆TIME 0.5

ディップスイッチ1をONすると、シャッター速度を0.5段単位で表示します。
OFFすると1段単位で表示します。

☆F No.

ディップスイッチ2をONすると絞り優先モード(定常光)が設定できます。

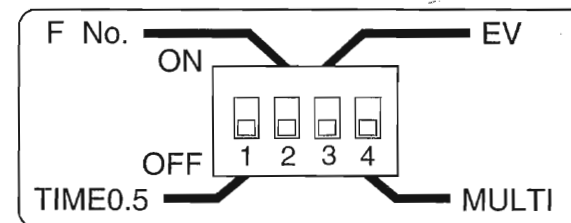
☆EV

ディップスイッチ3をONするとEVモード(定常光)が設定できます。

☆MULTI

ディップスイッチ4をONすると積算モード(フラッシュ光)が設定できます。

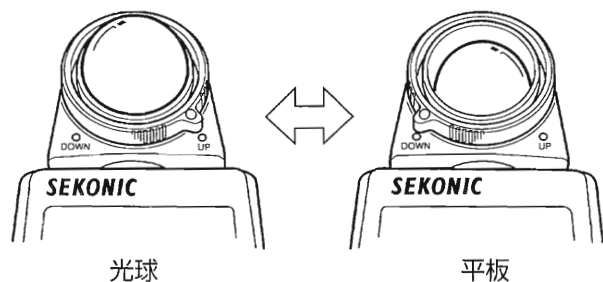
尚、追加されるモードの順序はP8の図を参照願います。



4. 基本操作

4. 入射光式で測定する場合

- 1) 入射光式の測定は、光球か平板機能を使って測定する方法です。光球と平板機能の切り換えは、光球上下リング①をクリックする位置まで確実に回して、切り換えてください。



2) 光球を上げた場合

人物や建物など立体的な被写体を撮影するときに使用します。

3) 光球を下げた場合(平板機能)

原稿や絵画など平面的な被写体を撮影するときや照明比の測定(P28参照)や簡易的に照度を測定(P30参照)するときに使用します。

ご注意

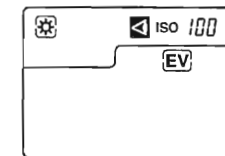
- 光球上下リングを中間位置で使用すると、配光特性が変わり適正な測定ができません。
- 光球を手で押し込むことはしないでください。
- 光球は大切な受光部です。傷や汚れを付けないように扱ってください。

6. 機能

5. 簡易輝度計としての使い方

- 1) 指示値補正(P32参照)は解除(☒表示なし)してあることを確認してください。

- 2) 反射光式のEVモードに設定し、ISO 100にセットします。



- 3) ファインダーを覗き、測定したい部分がサークル内に入るようにして測定します。

- 4) 下記の換算表で、測定したEV値から、輝度(cd/m^2)を求めてください。

☆EV値→ cd/m^2 換算表

EV小数項 EV整数項	0	0.5	EV小数項 EV整数項	0	0.5
3	1	1.4	12	510	720
4	2	2.8	13	1000	1400
5	4	6	14	2000	2900
6	8	11	15	4100	5800
7	16	23	16	8200	12000
8	32	45	17	16000	23000
9	64	91	18	33000	46000
10	130	180	19	66000	93000
11	260	360			

6. 機能

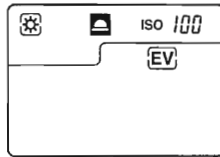
4. 簡易照度計としての使い方

- 1) 光球上下リング①を回して「DOWN」の位置にします。



- 2) 指示値補正 (P32参照) は解除 (EV表示なし) してあることを確認してください。

- 3) 入射光式のEVモードに設定し、ISO 100にセットします。



- 4) 測定したい面と受光部が平行になるようにして測定します。
- 5) 下記の換算表で、測定したEV値から照度 (ルクス) を求めてください。

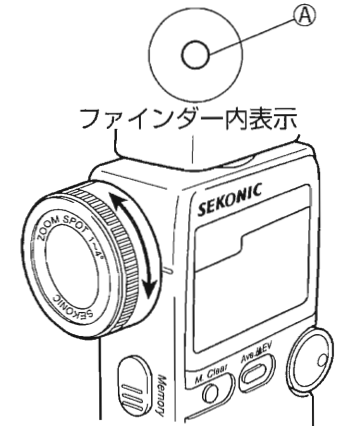
☆EV値→ルクス換算表

EV小数項 EV整数項	0	0.5	EV小数項 EV整数項	0	0.5
-2	0.63	0.88	9	1300	1800
-1	1.3	1.8	10	2600	3600
0	2.5	3.5	11	5100	7200
1	5	7.1	12	10000	14000
2	10	14	13	20000	29000
3	20	28	14	41000	58000
4	40	57	15	82000	120000
5	80	110	16	160000	230000
6	160	230	17	330000	460000
7	320	450	18	660000	930000
8	640	910	19	1300000	1900000

4. 基本操作

5. 反射光式で測定する場合

- 1) この方法は被写体に当たって反射した光の明るさ (輝度) を測る方法で、被写体位置まで行けない場合や発光する被写体 (ネオン等)、透過光 (スタンドグラス等) を測定する場合に適しています。
- 2) 受光角の変更は、ファインダーを覗きながら、ズームリング⑩を回して、行ってください。
- 3) ファインダー内のサークル⑨の内側を測定します。
- 4) 本機は1°~4°の反射光式測定が可能なことを特長の一つとしています。使用方法は7. 入射光式と反射光式の違い (P34参照) を参考にしてください。
- 5) ファインダー内の黒いサークル⑨の内側が測定範囲で受光角度はズームの望遠側にすると1度で、広角側にすると4度となります。



⚠ 注意 ●目に傷害を及ぼす恐れがありますので、ファインダーを通して太陽を直接覗かないでください。

ご注意 ●太陽を直接測定すると、受光素子の故障原因となりますので、おやめください。
●接眼部より光が入ると適正な露出が得られませんので接眼部から光が入らないように目を近づけて測定してください。
●測定範囲は1m~∞です。

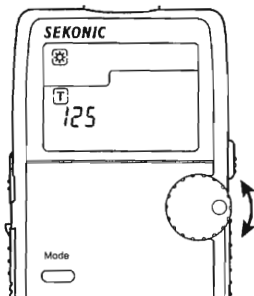
ご参考 ●測定時、手ブレ等で測定値が安定しない場合は、三脚に固定されることをお勧めします。
●ファインダー内のサークルが見にくい時は視度補正レンズ (P35参照) を使用することをお勧めします。

5. 測定

1. 定常光の測定

この測定方法には、シャッター速度優先、絞り優先、EVの各測定モードがあります。

モード設定ボタン⑩を押しながら設定/変換ダイヤル⑤を回して☒定常光測定モードに切り換えます。



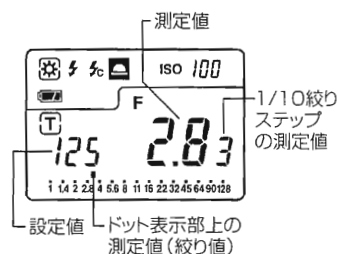
1-1 シャッター速度優先モードの測定

1) モード設定ボタン⑩を押しながら設定/変換ダイヤル⑤を回してシャッター速度優先モードにします。

2) 設定/変換ダイヤル⑤を回して希望のシャッター速度に設定します。

3) 測定ボタン⑱を押して測定します。測定ボタン⑱を離すと測定が完了し、そのときの測定値（絞り値）が表示されます。

測定ボタン⑱を押している間は連続測定します。



ご参考

- 設定できるシャッター速度は30分、20分、15分……1分、45秒、30秒……0.7秒、1/2、1/3……1/30、1/45、1/60、1/90、1/125、1/180、1/250……1/4000、1/6000、1/8000秒です。1/8000秒の次に1/200、1/400秒が別に設定できます。
- シャッター速度の段数はディップスイッチTIME0.5(P9参照)を操作することにより、1段、又は、0.5段(ハーフシャッター)毎のステップに切り換えることができます。
- シャッター速度は測定後でも設定/変換ダイヤルを回して変えることができ、新たな測定値(絞り値)を表示させることができます。
- 液晶のドット表示部には0.5段ステップで測定された絞り値が表示されます。

6. 機能

測定値のEV差	照明比
1	2:1
1.5	3:1
2	4:1
3	8:1
4	16:1
5	32:1

5) モニター解除は、アベレージ/モニターボタン④を押すと解除できます。

ご参考

- 露出の決定は、主光源と補助光源を点灯し光球を「UP」の位置にしてカメラの光軸に向けて測定します。
- アベレージ後、測定ボタンを押すとモニター機能として働きます。

6. 機能

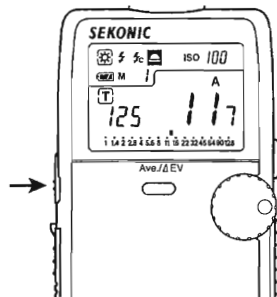
3. モニター機能

スタジオでのライティングの確認や照明ムラのチェックを行う時に便利な機能で、あるポイントでの測定値を基準値とした後、比較したい箇所で測定ボタン⑨を押している間、基準値とその箇所の差をEV値(数値)とF値(ドット)で表示します。

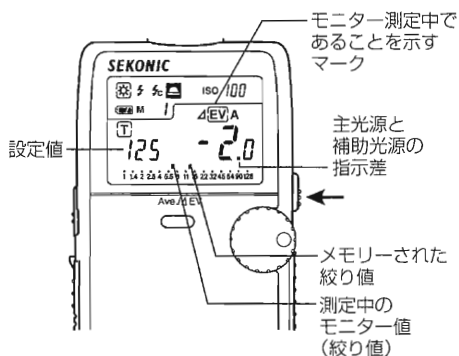
☆モニター機能を使っての照明比測定例(シャッター速度優先モードの場合)

主光源と補助光源の照明比を測定するとき、光球を下げて平板機能を使用して測定します。

- 1) 光球上下リング①を回して「DOWN」の位置にします。
- 2) 補助光源を消してください。被写体位置で光球部を主光源に向けて測定し、メモリーボタン⑭を押して測定値をメモリーします。
- 3) アベレージ/モニターボタン④を押して液晶表示部に「A」のマークを表示させてください。



- 4) 主光源を消してください。この状態で光球部を補助光源に向けて、測定ボタン⑨を押している間、主光源と補助光源の指示差が、EV値で表示され、同時にメモリー値、モニター値がドット表示部に表示され照明比(コントラスト比)を求めることができます。

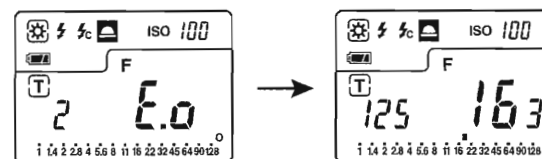


5. 測定

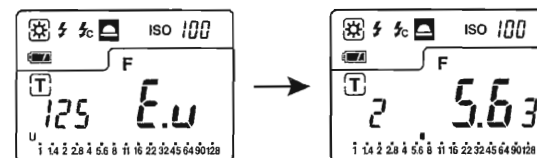
ご参考

・本機の測定可能な明るさの範囲内であっても、設定されたシャッター速度では最大絞り値(F128)でも露出オーバーとなるE.oマーク、又は最小絞り値(F1.0)でも露出アンダーとなるE.uマークの表示をすることがありますので下記のように対応してください。

☆表示範囲を超えてオーバー(E.o)となるときは、設定/変換ダイヤル⑤を回してシャッター速度を高速側に変更すると、それに応じて適正な絞り値を表示させることができます。

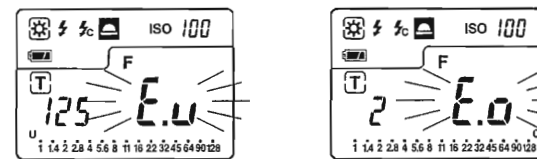


☆表示範囲を超えてアンダー(E.u)となるときは設定/変換ダイヤル⑤を回してシャッター速度を低速側に変更すると、それに応じて適正な絞り値を表示させることができます。



ご参考

・本機の測定可能範囲を越える明るさ(又は暗さ)の時はE.o又はE.uが点滅表示し、測定できないことを表します。この場合は明るさを調節してください。



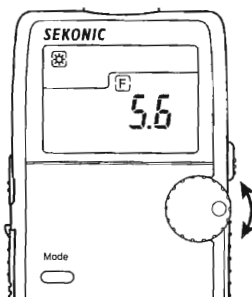
5. 測定

1-2 絞り優先モードの測定

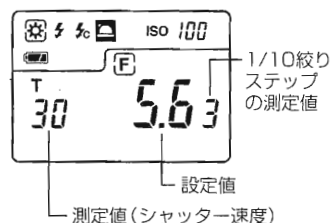
電池ふた⑳を開けディップスイッチ㉒F No. (P9参照)をON側にスライドします。

1) モード設定ボタン⑩を押しながら設定/変換ダイヤル⑤を回して絞り優先モードにします。

2) 設定/変換ダイヤル⑤を回して希望の絞り値に設定します。



3) 測定ボタン⑲を押して測定します。測定ボタン⑲を離すと測定が完了し、そのときの測定値(シャッター速度)が表示されます。測定ボタン⑲を押している間は連続測定します。



ご参考

- ・設定できる絞り値はF1.0からF128です(L-508CINEはF0.5~F90+0.9)。(1段ステップ)
- ・絞り値は測定後でも設定/変換ダイヤルを回して変更することができ、新たな測定値(シャッター速度)を表示させることができます。
- ・表示範囲外オーバー/アンダー及び測定範囲外オーバー/アンダーについては1-1項の「シャッター速度優先モード」の測定(P13参照)を参考として絞り値を変更するか明るさを調節して対応してください。

6. 機能

2. アベレージ機能

メモリーされた3点(L-508CINEは5点)までの測定値を平均し、表示します。

この機能は、定常光シャッター速度優先、EV、フラッシュ光(コード接続、コードレス)モードのとき使用できます。

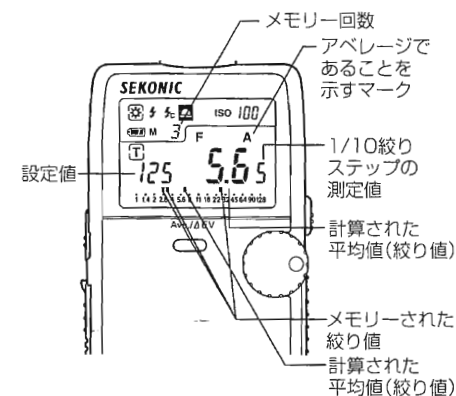
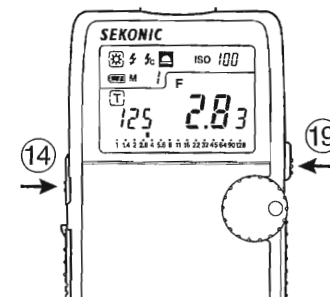
1) 測定ボタン⑲を押して測定します。

2) メモリーボタン⑭を押して、測定値をメモリーします。

3) 1.2を繰り返して2点目、3点目をメモリーします。

4) アベレージ/モニターボタン④を押すとメモリーされた2点、又は、3点の測定値の平均値がデジタル表示されます。尚、ドット表示部にもメモリー値と平均値が表示されますがその区別はつかないことがあります。この時液晶表示部にアベレージであることを示す「A」が表示されます。

5) アベレージ解除はアベレージ/モニターボタン④を押すと解除できます。



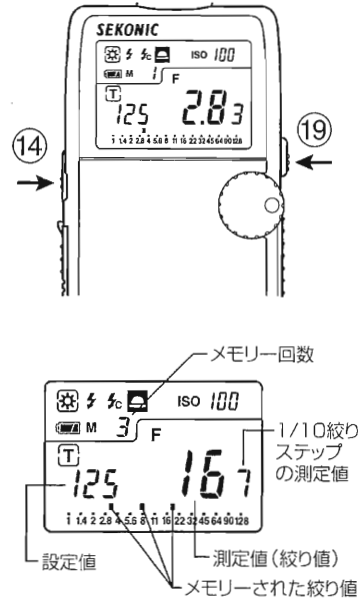
6. 機能

1. メモリー機能

本機は各測定方式（入射光式、反射光式）毎に最大3点（L-508CINEは5点）までの測定値をメモリーしドット部に表示します。

この機能は、定常光シャッター速度優先、EV、フラッシュ光（コード接続、コードレス）のモードのとき使用できます。

- 1) 測定ボタン⑱を押して測定します。
- 2) メモリーボタン⑭を押して、測定値をメモリーすると、液晶表示部に測定値とメモリー回数がデジタル表示され、さらに絞り値がドット表示されます。
この操作を繰り返すことにより3回までメモリーできます。
- 3) メモリーの解除はメモリー解除ボタン⑬を押すか、測定モードを切り換えることにより解除されます。



ご注意

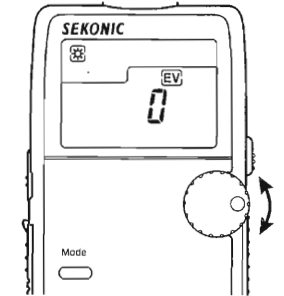
- 「定常光絞り優先モード」、「フラッシュ光積算モード」を使用しているときはメモリー機能を使用することはできません。
- 4回以降は測定値は表示されますが、メモリーはできません。
- 入反射切り換えダイヤルを操作した場合は、メモリがドット表示部に残っていますが、メモリー解除の操作を行うとすべてのメモリー値が消えます。

5. 測定

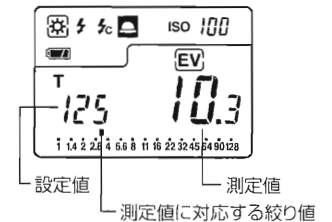
1-3 EVモードの測定

電池ふた⑳を開けディップスイッチ㉒EV（P9参照）をON側にスライドします。

- 1) モード設定ボタン⑩を押しながら設定／変換ダイヤル⑤を回してEVモードにします。



- 2) 測定ボタン⑱を押して測定します。測定ボタン⑱を離すと測定が完了し、そのときの測定値（EV値）を表示します。同時にシャッター速度に対応する絞り値がドット表示されます。
測定ボタン⑱を押している間は連続測定します。



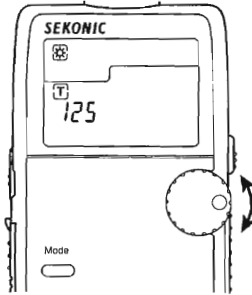
ご参考

- EV値とはシャッター速度と絞り値で組み合わせられる一定の光量を表したものです。1EV変化すると光量は倍（又は1/2）になります。
ISO100、絞り値F1.0、シャッター速度1秒の時をEV0とし、それより絞りを1段絞るか、シャッター速度を1段速くする毎に数値が1ずつ増していくように定めた表示方法です。
- 測定範囲外オーバー／アンダーについては1-1項の「シャッター速度優先モード」の測定（P13参照）を参考として明るさを調節して対応してください。

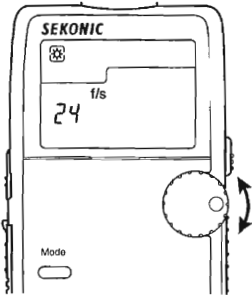
5. 測定

1-4 シネカメラ撮影の測定 (L-508CINE使用の場合は、L-508CINE使用説明書をご参照願います。)

- 1) モード設定ボタン⑩を押しながら、設定/変換ダイヤル⑤を回してT定常光シャッター速度優先測定モードに切り換えます。



- 2) 設定/変換ダイヤル⑤を回して使用するシネカメラのシネコマ数を設定します。



シネコマ数の設定は……1/8000、1/200、1/400秒の次から表示され、単位はf/sとなります。設定できるシネコマ数は2、3、4、6、8、12、16、18、24、25、30、32、36、40、48、60、64、72、96、120、128、150、200、240、256、300、360が設定できます。

- 3) 設定されているシネカメラのシャッター開角度は180°です。これ以外の開角度では以下のようにISO感度等で補正してください。

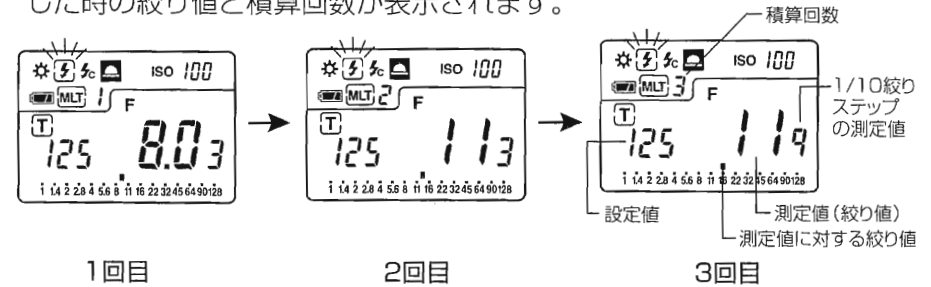
シャッター開角度	ISO感度補正量
160°	-1/3
220°	+1/3

補正量について

- 1/3 : ISO感度の設定を1/3段小さい値にする。
例 ISO 80→64
- +1/3 : ISO感度の設定を1/3段大きい値にする。
例 ISO 80→100

5. 測定

- 3) フラッシュを受光すると、絞り値が表示され、これを繰り返す毎に積算した時の絞り値と積算回数が表示されます。



- 4) 測定待機状態は約90秒間継続されます。90秒間を経過し点滅が消えた場合、改めて測定ボタン⑨を押すと前回までの測定値(絞り値)は0になり再び待機状態となります。

ご注意

- 測定後にシャッター速度を変えると測定値(絞り値)は消え、積算回数及び絞り値は0になりますので、再測定してください。
- フラッシュを発光させても周囲の光に比べてフラッシュの光量が少ない場合は、光を感知しない時がありますので、そのときは「フラッシュ光コード接続モード」で測定してください。
- ラビットスタート形蛍光灯や特殊な照明下では、まれにこれらの光をフラッシュ光として判別し、測定してしまうことがあります。このような時は「フラッシュ光コード接続モード」で測定してください。
- フラッシュバルブ(閃光電球)は発光波形がなだらかなため、コードレス測定では光を感知しないので必ず「フラッシュ光コード接続モード」で測定してください。

ご参考

- 表示範囲外オーバー/アンダー及び測定範囲外オーバー/アンダーについては、2-1項の「フラッシュ光コード接続モード」の測定(P20参照)と同様です。
- 測定後、フィルム感度を変えると換算した新たな測定値が表示されます。

5. 測定

ご注意

- フラッシュバルブ（閃光電球）を発光させて測定するときは、その都度フラッシュバルブ（閃光電球）を新しく交換してください。
- 極端にトリガー電圧が低いフラッシュ等では、発光しない場合があります。この場合は「フラッシュ光コードレスモード」で測定してください。（P21参照）
- 測定後にシャッター速度を変えると測定値（絞り値）は消え、積算回数及び絞り値は0になりますので、再測定してください。

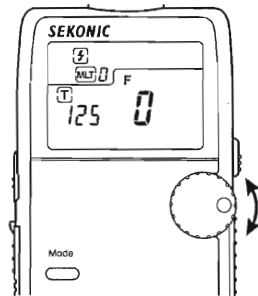
ご参考

- ・測定後、フィルム感度を変えると換算した新たな測定値（絞り値）が表示されます。
- ・シャッター速度の設定は2-1項の「フラッシュ光コード接続モード」の測定（P19参照）と同様です。
- ・表示範囲外オーバー／アンダー及び測定範囲外オーバー／アンダーについては、2-1項の「フラッシュ光コード接続モード」の測定（P20参照）と同様です。

2-4 フラッシュ光コードレス積算（マルチ）モードの測定

この測定は1回の発光量では光量が足りないとき、数回発光させそれを積算する毎に適正の絞り値を表示させる方法です。積算回数は9回までです。

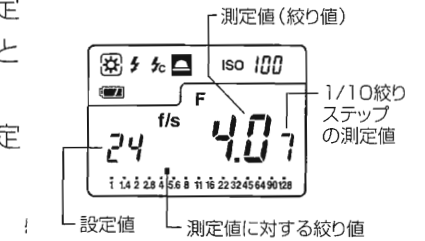
- 1) ディップスイッチ⑳MULTI（P9参照）をON側にスライドします。モード設定ボタン⑩を押しながら、設定／変換ダイヤル⑤を回してⓂとMLTのマークが表示されたときフラッシュ光コードレス積算モードになります。



- 2) 設定／変換ダイヤル⑤を回してシャッター速度を設定します。シャッター速度を設定するときは、使用機材の同調範囲をあらかじめ確認して設定してください。

5. 測定

- 4) 測定ボタン⑲を押して測定します。測定ボタン⑲を離すと測定が完了し、そのときの測定値（絞り値）が表示されます。測定ボタン⑲を押している間は連続測定します。



ご参考

- ・液晶のドット表示部には0.5段ステップで測定された絞り値が表示されます。
- ・表示範囲外オーバー／アンダー及び測定範囲外オーバー／アンダーについては1-1項の「シャッター速度優先モード」の測定（P13参照）を参考としてシネコマ数を変更するか、明るさを調節して対応してください。

5. 測定

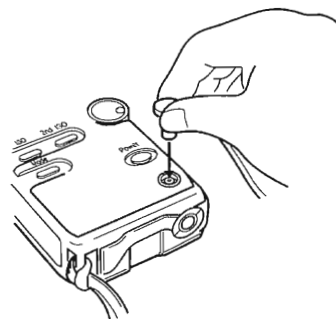
2. フラッシュ光の測定

この測定方法には、コード接続、コードレス、コード接続積算、コードレス積算の各測定モードがあります。測定値はフラッシュ光と定常光をプラスした値が表示されます。

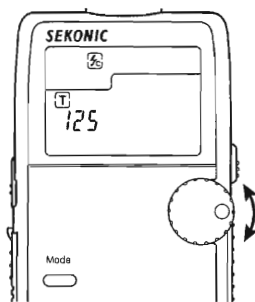
2-1 フラッシュ光コード接続モードの測定

フラッシュと本機をシンクロコードで接続して測定を行う方法でフラッシュとの同調を確実にしたい場合や、フラッシュバルブ(閃光電球)測定の際に使用します。

- 1) フラッシュのシンクロコードを本機のシンクロターミナル⑧に接続します。

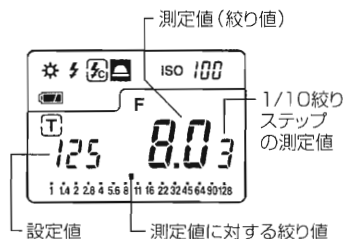


- 2) モード設定ボタン⑩を押しながら、設定/変換ダイヤル⑤を回してフラッシュ光コード接続測定モードに切り換えます。



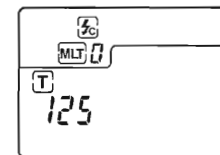
- 3) 設定/変換ダイヤル⑤を回してシャッター速度を設定します。シャッター速度を設定するときは、使用機材の同調範囲をあらかじめ確認して設定してください。

- 4) 測定ボタン⑲を押すと、フラッシュが発光し、そのときの測定値(絞り値)が表示されます。

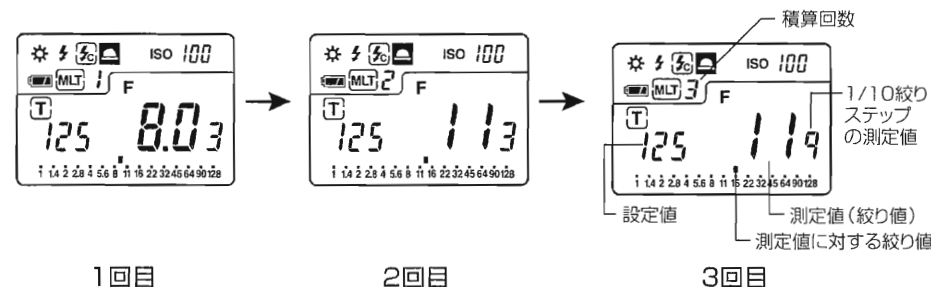


5. 測定

- 2) 設定/変換ダイヤル⑤を回してシャッター速度を設定します。シャッター速度を設定するときは、使用機材の同調範囲をあらかじめ確認して設定してください。



- 3) フラッシュのシンクロコードを本機のシンクロターミナル⑧に接続します。
- 4) 測定ボタン⑲を押すと、フラッシュが発光し絞り値が表示され、これを繰り返す毎に積算した時の絞り値と積算回数が表示されます。



注意 ●雨中、水しぶきがかかる場所や水気のあるところ、濡れた手で扱う等の場合、感電の危険がありますのでシンクロターミナルキャップを外さずに、「フラッシュ光コードレスモード」での測定をお勧めします。

ご注意 ●シンクロターミナルにシンクロコードを接続するときや本機の電源ボタンを操作した場合フラッシュによっては発光する場合があります。
●フラッシュバルブ(閃光電球)を発光させて測定するときは、同調範囲を確認してシャッター速度を設定してください。

ご注意

- 測定後にシャッター速度を変えると測定値(絞り値)は消え、0になりますので再測定してください。
- フラッシュを発光させても、周囲の光に比べてフラッシュの光量が少ない場合は、光を感知しない時がありますので、そのときは「フラッシュ光コード接続モード」で測定してください。
- ラビットスタート形蛍光灯や特殊な照明下では、まれにこれらの光をフラッシュ光として判別し、測定してしまうことがあります。このような時は「フラッシュ光コード接続モード」で測定してください。
- フラッシュバルブは発光波形がなだらかなため、コードレス測定では光を感知しないので必ず「フラッシュ光コード接続モード」で測定してください。

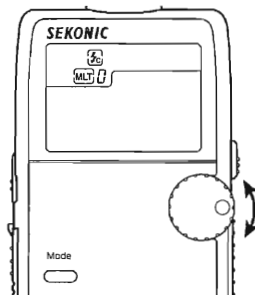
ご参考

- シャッター速度の設定は2-1項の「フラッシュ光コード接続モード」の測定(P19参照)と同様です。
- 測定後、フィルム感度を変えると換算した新たな測定値が表示されます。
- 表示範囲外オーバー/アンダー及び測定範囲外オーバー/アンダーについては、2-1項の「フラッシュ光コード接続モード」の測定(P20参照)と同様です。

2-3フラッシュ光コード接続積算(マルチ)モードの測定

この測定は1回の発光量では光量が足りないとき、数回発光させそれを積算する毎に適正の絞り値を表示させる方法です。積算回数は9回までです。

- 1) ディップスイッチ②MULTI(P9参照)をON側にスライドします。モード設定ボタン⑩を押しながら、設定/変換ダイヤル⑤を回して④とMULTIのマークが表示されたときフラッシュ光コード接続積算モードになります。



⚠注意

- 雨中、水しぶきがかかる場所や水気のあるところ、濡れた手で扱う等の場合は感電の危険がありますのでシンクローターミナルキャップを外さずに、「フラッシュ光コードレスモード」での測定をお勧めします。

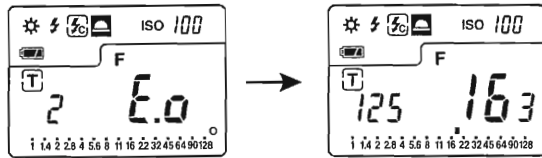
ご注意

- シンクローターミナルにシンクロコードを接続するときや本機の電源ボタンを操作した場合フラッシュによっては発光する場合があります。
- 極端にトリガー電圧が低いフラッシュ等では、発光しない場合があります。この場合は「フラッシュ光コードレスモード」で測定してください。(P21 参照)
- フラッシュバルブ(閃光電球)を発光させて測定するときは、同調範囲を確認してシャッター速度を設定してください。

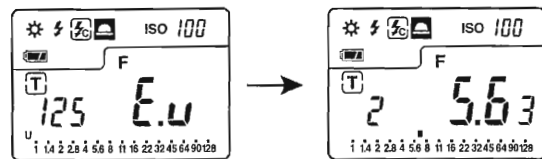
ご参考

- シャッター速度は1秒、0.7秒、1/2、1/3……1/30、1/45、1/60、1/90、1/125、1/180、1/250、1/350、1/500、1/750、1/1000秒が設定でき1/1000秒の次に1/75、1/80、1/90、1/100、1/200、1/400秒が別に設定できます。
- 測定後、フィルム感度を変えると換算した新たな測定値(絞り値)が表示されます。
- 測定後にシャッター速度を変えると測定値(絞り値)は消え、0になりますので再測定してください。
- 本機の測定可能な明るさ範囲内であっても、設定されたシャッター速度に対応する絞り値がE.o又はE.uの表示をすることがあります。次の方法で再測定してください。

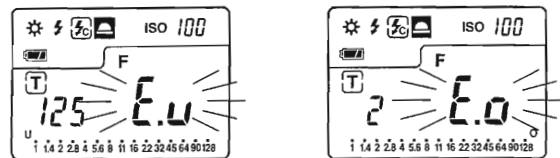
☆表示範囲を超えてオーバー (E.o) のときは、設定/変換ダイヤル⑤を回して、シャッター速度をカメラが同調する範囲内の高速側に変更するか、フラッシュの光量を弱くし、再測定を行うと測定値 (絞り値) を表示させることができます。



☆表示範囲を超えてアンダー (E.u) のときは設定/変換ダイヤル⑤を回してシャッター速度を低速側に変更する、フラッシュの光量を強くする、又は、積算モード (P22参照) にし、再測定を行うと測定値 (絞り値) を表示させることができます。



☆本機の測定可能範囲を越える明るさ (又は暗さ) の時はE.o又はE.uが点滅表示し測定できません。この場合はフラッシュの光量を調節して再測定してください。



2-2 フラッシュ光コードレスモードの測定

フラッシュ光を本機が受光することにより測定を行います。この測定モードは一般的にフラッシュと本機の距離がありシンクロコードが届かないときや、シンクロコードが煩わしいときに使用します。

1) モード設定ボタン⑩を押しながら、設定/変換ダイヤル⑤を回して④フラッシュ光コードレス測定モードに切り換えます。

2) 設定/変換ダイヤル⑤を回してシャッター速度を設定します。シャッター速度を設定するときは、使用機材の同調範囲をあらかじめ確認して設定してください。

3) 測定ボタン⑨を押すと、モードマーク④が点滅し測定待機状態になります。測定待機状態は約90秒間継続されます。この間にフラッシュ光を発光させ、測定してください。

4) 90秒間を経過し点滅が消えた場合、改めて測定ボタン⑨を押してください。前回の測定値 (絞り値) は0になり再び測定待機状態となります。

5) フラッシュ光を受光すると測定値 (絞り値) が表示されます。測定後も、モードマーク④が点滅し、測定待機状態になり、新たな測定が可能となります。

